

「給食週間」ということで亙理の食材を使った給食献立が続いた。ホッキ飯が食べたいところだが、無理というものだろう。昨日は亙理町で作られている「亙理納豆」が出た。私が担任時代、生徒指導で荒れた学校・学級は給食に納豆が出ると、食べない子が続出した。まあ独特の香り？のせいかな、食べると「納豆くせえ！」と言うバカな輩が結構いたからである。納豆を食べる奴はダサイと思われた。牛乳も同様に敬遠された。給食配膳室には「食べたいのに」手つかずの「納豆」「牛乳」が返されてきた。

言うまでもなく納豆はタンパク質豊富な非常に優秀な発酵食品である。高校や大学で運動部に所属していたが、プロテインなどがなかった時代、合宿の食事は「ご飯」「納豆」「卵」「豆腐」「チーズ」「牛乳」ばかりだった。肉などは高価で、夕食のカレーにわずかに入っている程度。ハムが出れば喜んだくらいである。それでも十分な筋肉がついた。

だから担任時代は「納豆くせえ！」という子供に対抗して、余った納豆を5個も6個も子供たちの前でうまそうに食べた。納豆や牛乳を常に食べているアスリート、芸能人、モデルの話をし、栄養学・脳科学的な話もした。それでも何となく空気を読んで、納豆を食べない子供はあまり減らなかった。

昨日、全学級を見て回ったが「本当に苦手な子」以外はみんな普通に食べていた。当たり前と言われるかもしれないが、「納豆暗黒時代」を経験した私にとっては、「いい子供たちだなあ」と思えるのだ。